

2022年10月24日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・ 放送収入

タイムは前年比、東京オリンピックの反動減があり、スポットも上半期は関東エリアの投下量は100%を割れる状況であった。急激な円安や、原材料高などの要因が絡み合い、引き続き先行き不透明感は大きい。

・ 放送外収入

10月21日公開の映画『線は、僕を描く』は見た方の感想や評価が非常に高い作品となっており、今後に期待したい。11月1日からは、幅広い分野で活躍された、現代アートの第一人者とされる『大竹伸朗展』が、東京国立近代美術館にて開催される。

10月8日からは、イギリス・ロンドンのバービカン劇場で、舞台『となりのトトロ』が開幕した。イギリスのロイヤル・シェイクスピア・カンパニーと日本テレビが共同製作し、舞台化した。現在この舞台はウエストエンドで最もチケットが取れない公演と言われており、海外でもジブリ、あるいはトトロの人気の高いことが証明された。イギリスでは声出しが禁止されていないため、トトロの一挙手一投足で会場は大歓声という状況になっていた。有名なバス停で傘を持ってジャンプするシーンは、割れんばかりの拍手喝采となっていた。ガーディアン紙の劇評では最高評価の五つ星を獲得し、非常に良い形でスタートを切ることができた。公演は来年の1月21日までの上演が決定している。日本国内含め、今後の展開については、また決まり次第追ってお知らせしたい。

今年の『24時間テレビ45』の寄付金総額が、9億6688万9921円で確定した。これで45年間の累計は424億1725万5957円となり、24時間テレビ45は、歴代14位となっている。昨年に比べてキャッシュレス金額は減ったが、対面募金の金額が積みあがり、前年を8000万円上回った。ここ2年、直接募金をお預かりできない状況が続いたので、今年はネット局や店頭、また子供たちが募金を直接渡したいという思いを、対面で受け取ることができた結果と捉えている。

3. 質疑他

Q. 10月改編新番組について

A.

ドラマ『ファーストペンギン』『祈りのカルテ 研修医の謎解き診察記録』『霊媒探偵・城塚翡翠』の3本が始まり、3ドラマそれぞれ良い形でスタートした。『カズレーザーと学ぶ。』は明日25日から始まる。ご期待頂き、応援をお願いしたい。

Q. 年末年始の特番について

A.

お話できるタイミングまで、もうしばらくお待ちください。

Q. トライアル期間含め、2年経った同時配信について

A.

民放5局揃ったことにより、認知度も広がり、利用者数も堅調に推移している。TVerのリアルタイム配信をどうPRするかが課題だが、TVerのリアルタイム配信だけ利用している方もいることが、調査で分かってきた。リアルタイム配信では、スポーツ中継やニュースの特番時に視聴が伸び、VODではドラマを中心に伸びている。テレビコンテンツに触れる場を多く作り、利用シーンを幅広く使って頂き、浸透させていきたい。

Q. 『笑点』 円楽さんご逝去について

A.

『笑点』に復帰されることを待ち望んでいた。本当に残念な気持ちでいっぱいである。27歳で笑点メンバーになり、45年間と長い間、番組の顔として活躍され、功績を残された。改めてご冥福をお祈りする。

近いところで接していた、スタッフからの言葉を披露したい。

「『舞台の上では先輩も後輩もない。遠慮せずに私のことをいじりなさい』という歌丸師匠のアドバイスから、番組の名物となる“歌丸VS円楽”が誕生したと聞いている。お二人とも他界してしまい、寂しさを感じる。“腹黒”“友達がいない”キャラが定着していたが、実際は円楽師匠を慕う仲間や友達は多くいらっしやる。大喜利へのこだわりは人一倍強く、時にはメンバーの師匠に厳しいことを言い、プロデューサーやディレクターにも強く意見することがあったが、必ず『さっきは言い過ぎちゃったね、ごめんね』とメールや電話でフォローする優しい一面があった。地方収録の際、ホテルの厨房でラーメンを作り、振る舞ってくださったこともあった。絶えず周囲に気配りをされる師匠だった。ムードメーカーでファッションリーダーでもあった円楽師匠の存在はあまりに大きく、番組としての喪失感は否定できない。天国の円楽師匠に心配おかけしたくないので、番組スタッフは他のメンバーの師匠の皆さまと共に、今後も頑張っていく。」

円楽さんの後任については、さまざまな観点から次の方を選び、お願いしたい。

Q. 今年の『24時間テレビ』に出演した、アントニオ猪木さんご逝去について

A.

『24時間テレビ』の放送の1カ月前に、関係者の方から現場に「猪木は生きるために目標を持ちたい。常にチャレンジしたいと言っている。猪木を取り上げてくれる番組はありませんか」と連絡をいただいたところから始まった。プロレスファン以外にも多くの方に見ていただける『24時間テレビ』はどうかと提案し、ぜひ国技館にいらしていただき、猪木さんの気合で日本を元気にしてください、とオファーした。

意義のある番組と評価していただき、更に「たくさん強い相手と戦った国技館にもご縁を感じる。1カ月間、目標を持ってリハビリできる」と即答をいただいた。

猪木さんは当日腰の痛みがあり、ストレッチャーに乗って国技館入りした。スタッフが「ご無理なさらないでください」と申し上げたが、「大丈夫だ」といって、車椅子に乗り、髪を整え、赤い闘魂タオルを首に巻くと、いつもの生気みなぎる表情になられ、その後ステージに上がっていただいた。全国に向けた熱いメッセージに魂が揺さぶられた。

改めてたくさんの方の勇気と感動をありがとうございましたと、申し上げたい。

Q. ザ・ドリフターズ仲本工事さんご逝去について

A.

学生時代、ザ・ドリフターズの『8時だヨ！全員集合』の熱狂的な視聴者の1人であった。長年活躍されたグループのメンバーの方が、事故という形で、本人も関係者も心の準備ができないまま亡くなられたことについて、本当に残念でならない。

今年の2月に『しゃべくり007』にゲストとしてお招きした。志村けんさんがお亡くなりになられた2年前には、『24時間テレビ』にもご出演いただいた。加藤茶さん、高木ブーさんとの息の合ったバンド演奏を、視聴者の皆様にも楽しんでいただけたと思っている。ご活躍に敬意を表しますとともに、心からお悔やみ申し上げます。

Q. NHKの受信料値下げについて

A.

NHKの事業規模がどの程度のものであるのが適正であるかを含め、その他ガバナンスや受信料の問題などと共に、三位一体改革という言葉に込めて、民放連としてもNHKに対して求めてきた経緯があった。

その中で、受信料引き下げの提案は一定の評価をするに値すると思うが、下げ幅の妥当性や、どのような原資の中でその割合が出てきているかなど、これは民放各社それぞれ見方が違うところでもある。民放との協力関係の在り方も併せて、今後は民放連の場を中心に、議論を深めていく状況になると考えている。

(了)

石澤 顕	代表取締役	社長執行役員
福田 博之	取締役	常務執行役員
於保 浩之	取締役	常務執行役員
沢 桂一	取締役	執行役員